

令和5年度 第2回成田市水道事業運営審議会 会議概要

1 開催日時

令和5年11月15日（水）午後2時から午後3時10分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所 3階 第二応接室

3 出席者

（委員）

遠藤会長・伊藤副会長・宮田委員・椎名委員・岩館委員・伊地知委員

（事務局）

堀越水道部長・平山業務課長・野平工務課長・石橋業務課長補佐・
岡野工務課主幹・伊藤工務課主幹・石毛業務課係長

4 議題

（1）水道料金のあり方について

5 議事（要旨）

（1）水道料金のあり方について

資料に基づき、これまでの検討経過及び具体的なシミュレーション案についての説明を行った。

【遠藤会長】

参考資料として、事前に事務局にお願いしました口径別割合資料の配付をお願いします。

【事務局】

（リクエストされた資料を各委員に配付）

【遠藤会長】

これを見ると、20mmの口径の割合が圧倒的に多い。

【伊藤副会長】

前回の改定から約 11 年改定していないが、その当時から 13、20mmのシェアは変わっていないか。

【事務局】

傾向としては変わっていない。

【伊藤副会長】

前回の改定の考え方が変わっていないのが資料 1 ということであると思うが、今回の改定で事務局はどう考えているか。また、基本料金と従量料金の改定率が 41.5%になっているが、それぞれの割合を変えるということは考えているか。

【事務局】

一律で値上げすることが公平だと考える。

基本料金と従量料金で改定率を変えることについては、資料 6 と資料 7 で他事業体との比較で平均的に改定していることがわかる。従量料金については節水等の努力により料金を軽減できるという利点があるが、前回の改定と同じようにそれぞれ同じ改定率を基本として考えたい。

【伊地知委員】

個人的な考えとして、大口の企業などは、水道料金は経費の一部であるが、サラリーマンは、値上げは直接負担することになる。利用者の割合が多い 13、20mmに対して配慮した資料 2 が妥当であると思う。

資料 2 をベースにして資料 3 の単身者を上げるべき。

【事務局】

経費で落とすということだが、逡増料金制であり使用すればするほど高くなる仕組みであるため、大口利用者の方も負担になる。

大口利用者の方もその勤務者が自宅で 20mmを使っている方もあると思うので、そこに配慮するという考え方もある。

【伊地知委員】

自宅は 20mmで月に 2,500 円くらいである。13mmに変えることはできるのか。

【事務局】

工事費が発生する。

また、家の水栓数により 13mmでは水量が出なくなる場合がある。設計するうえで、20mmを使っていただいていると思う。

【遠藤会長】

大口利用者の立場で意見はないか。

【椎名委員】

当院でも設備の老朽化等で改修などでも厳しいところがある。いろいろなものが値上げしている中で、少しでも経費が抑えられればと考える。

【事務局】

成田市水道は 90 年ほどになるため、初期の施設については、事故等が起こらないように更新計画に基づき進めていく必要があり、必要な経費は利用者の皆様にご負担いただくようになる。

【遠藤会長】

全国で言われている水道施設の老朽化については、成田は特に進んでいると聞くが。

【事務局】

管路の老朽化で言うと法定耐用年数を超過した管路が約 40 k mあり、耐震化適合率は 58.7%となっている。また、老朽化した配水場を統廃合しながら更新しているところであり、水道の安定供給のため経費が必要になる。

【遠藤会長】

市営水道の老朽管による漏水被害等はあるか。

【事務局】

年間 50 件ほどの漏水が発生している。主に給水管からの取出しが多く、配水管の漏水は少ない。

配水場については、点検しながら稼働し、不具合があった場合はその都度、更新をしている。30 年以上たった施設については、更新計画に基づき行っている。

【伊藤副会長】

成田市は基本料金において県内 21 番目でかなり低い。これは 11 年間改定をせず維持している中で、比較的設備等の環境が変わっていないことによるもの。資料 1、2 については、県内平均は意識していないのか。

【事務局】

平成 24 年の改定は、県内平均の比較において、口径 13mm で比較をするという考え方があり、なるべく 13mm を安くしようという考え方があった。

今回の改定では、所要額が全体で 41.5% 必要になるため、利用者の多い 13、20mm で他市と比べて高くないようにと考えてみた。

口径別割合の多い 20mm については、県内平均に近づけることはむずかしいと考える。また、大口利用者についてもそれ以上に高い。

【遠藤会長】

市営水道の料金は、県平均というよりもニュータウンの県営水道と比較してきた。令和 7 年から 5 年間の計画で値上げした場合、県営水道並みの料金水準を保つにはどれぐらい不足するのか。

【事務局】

32 億円が必要となる。

【遠藤会長】

仮に一般会計から繰り入れていただくことを考えても、現実的な金額ではない。

【宮田委員】

この審議会で決定した改定がそのまま市で決定されるのか。

【遠藤会長】

市に意見として答申することになる。

【宮田委員】

個人的な意見として、あまり上がらない方がいい。

資料 2 がいいと思う。対象件数が多い口径に合わせる方がいいと思う。

【岩館委員】

県営水道と市営水道の料金ができるだけ差がない方が利用者として理解しやすい。

総枠が決まっている中で、このような改定になってしまうが、どのような説明を行っていくのか。

【事務局】

県営水道はエリアが狭く効率的に配水できるという利点がある。市営水道の方は歴史が古いため、先に施設の更新時期を迎えていることはご理解いただけていると思っている。

また、簡易水道については市からの補助金で成り立っているが、料金もだいぶ高い状況である。

【遠藤会長】

成田市には、市営水道と2つの簡易水道があり、それぞれ料金体系がちがう。その中で、約4万件の県営水道と約7万件の市営水道で当然反発はある。

【岩館委員】

水道料金が上がれば、一般の家庭でも節水の努力はすると思う。

【伊地知委員】

節水の努力をしても水道管の経年劣化は進み、更新の費用は利用者が負担することになる。

【岩館委員】

受益者が努力して自分の料金を軽減することを考えると、基本料金を抑えて、従量料金を上げることが必要ではないか。

【伊藤副会長】

自分は、基本料金を上げて、その収入で将来の施設整備に使い安定供給につながるという考えの方が理解しやすいと思う。

【岩館委員】

現状の基本料金と従量料金は県営水道と変わらないのか。

【事務局】

資料 6 により、1,000 m³まではほぼ同じ体系である。資料 7 により基本料金の比較になる。

【伊藤副会長】

資料 1 がいいと思うが、事務局としてはどのケースと考えているのか。

【事務局】

公平な立場で言えば資料 1 と考える。

【伊藤副会長】

いろいろ意見が出たが、他の考え方はどうか。

【事務局】

13mmについて再調整することが考えられる。委員の皆様がよろしければ、本日のご意見を参考に 1 月に審議会を開催させていただいて、お示ししたい。

【遠藤会長】

いかがでしょうか。

【委員】

異議なし。

6 傍聴

(1) 傍聴者

0 人（うち記者 0 人）

7 次回開催日時（予定）

令和 6 年 1 月

以上